

TUAD IS HERE

●日常の中の芸工大



プロダクトデザインを学んだ2人がものづくりの魅力を伝えるカフェ&ショールーム〈Tschool〉が福島市にオープン。

福島県福島市に2013年1月にオープンした〈Tschool (ツクール)〉は、プロダクトデザイン学科卒業生のクリエイター、加藤正樹さんと和田紘典さん2人のショールーム兼アトリエです。カフェを併設した店内にはオリジナルプロダクトの他、各地のクリエイターから仕入れた、作り手のアイデアや熱意が伝わる製品が並んで

います。同期生だった2人がそれぞれの「ものづくりをしたい」という思いを追求し、結実させる場として生まれた〈Tschool〉。ドイツの国際見本市に出品したプロダクトが評価を受けるなど、世界からの注目も集まっています。

WEB 2人のプロダクトに対する想いを伝えます。

表紙のアート



設計から施工まで、学生たちの積極参加でエコハウスが復興への象徴、拠点になります。

高台移転が決まった被災地・宮城県気仙沼市大沢地区の街づくりを建築・環境デザイン学科がお手伝いしています。その避難所生活が続く地元の方々を結ぶ目的で、エコハウス仕様の集会所の建設を先行して進めています。週末には学生たちも駆け付け、地元大工さんの指導を受けながら9月中の完成を目指しています。

WEB 大沢地区集会所の建設についてご紹介します。

g*gとは

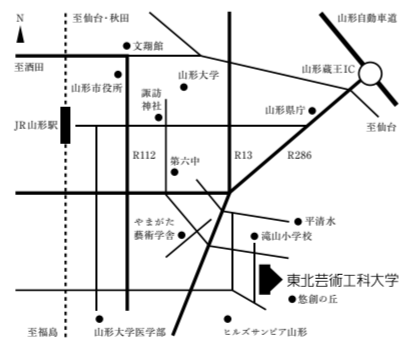
芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もうひとつの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインがこいい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみならず芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。広報室では、「g*g」を置いていただけるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

東北芸術工科大学

【芸術学部】 文芸学科、美術史・文化財保存修復学科、歴史遺産学科、美術科[総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸(漆芸、陶芸、金工)/テキスタイル]
【デザイン工学部】 コミュニティデザイン学科[※]、企画構想学科、プロダクトデザイン学科、建築・環境デザイン学科、グラフィックデザイン学科、映像学科、メディア・コンテンツデザイン学科
【大学院芸術工学研究科】 博士後期課程 芸術工学専攻、修士課程[芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻 仙台スクール]
【研究機関】 やまがた芸術学舎[共創デザイン室/東北復興支援機構TRSO]、東北文化研究センター、文化財保存修復研究センター、こども芸術教育研究センター、デザイン哲学研究所、東アジア芸術文化研究所
 ※2014年4月開設

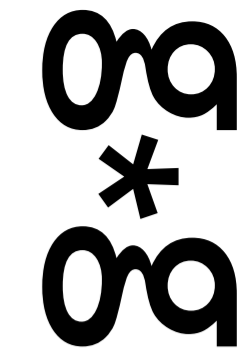
g*g オフィシャルサイト <http://blog.tuad.ac.jp/gg/>

大学周辺マップ



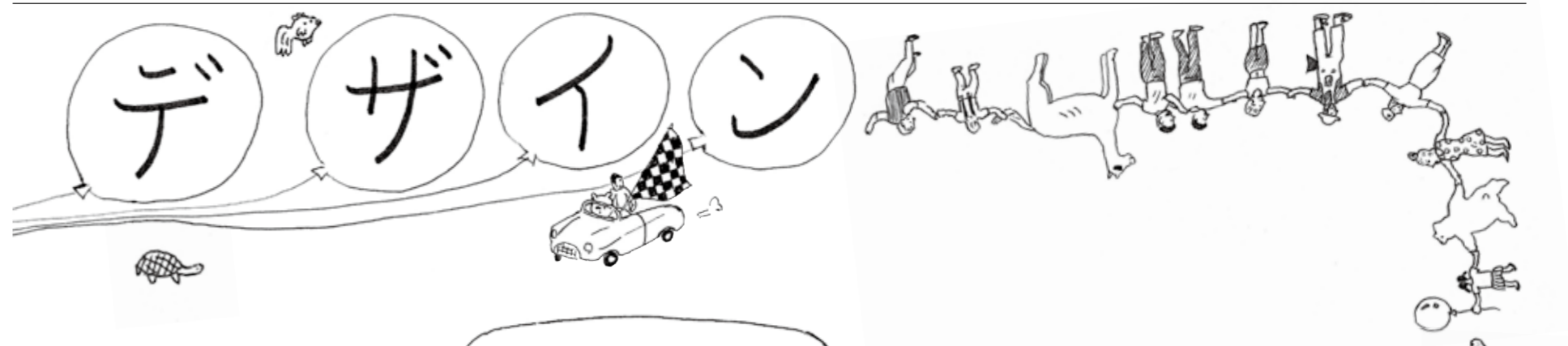
東北芸術工科大学広報誌 g*g
 2013年7月18日発行
 発行: 学校法人東北芸術工科大学
 〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5
 東北芸術工科大学広報室
 TEL: 023-627-2246 FAX: 023-627-2185
 URL: <http://www.tuad.ac.jp/>
 Email: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2013
 印刷: 田宮印刷株式会社



芸術市民とついに創る
 芸工大広報誌「ジー・ジー」
 Vol.25 SUMMER 2013
 東北芸術工科大学





アイデアの種を持ち込むか、引き出すか モノではない、コトのデザインが広げる可能性

山崎亮 [コミュニティデザイン学科教授] × 小山薫堂 [企画構想学科教授]

2014年4月に新設するコミュニティデザイン学科と、様々な企画を実現してきた企画構想学科。それぞれの学科の特性などを、学科長に就任予定の山崎亮氏と小山薫堂教授に語っていただきました。

コミュニティデザイン学科と企画構想学科。 コトのデザインのプロがリードする両学科。

山崎 コミュニティデザインは、地域住民の主体性をどう引き出していくかが最大の主眼となります。住民が動きだし、コミュニティをつくって何か新しいことを始める、というところまで持っていくのが僕らの仕事。僕らが抜けた時に活動が止まってしまうように、住民の方の話を聞きながら進めます。例えば、人口減少と高齢化に悩む島根県海士町では、住民との対話のきっかけとなるプロジェクトを、〈studio-L〉がサポートしながら住民参加で策定しました。こちらがアイデアを出してしまうと住民がお客様になってしまうので、そうならないように。現在は東北復興におけるコミュニティデザインについての問い合わせも増えているので、学生と教員で現場に入り実地で学んでいこうと思っています。



海士町プロジェクト
高齢化率も高く人口減少に悩む島根県の海士町。今後10年間の町運営の指針となる計画策定を〈studio-L〉がサポート。町の未来に向けた計画や取り組みを紹介する冊子を制作。生活者視点で課題を抽出し、24の「まちづくり具体案」を掲載しました。

小山 企画を構想する上で僕が一番の理想だと思うのは、実は山崎さんがやられているようなこと。僕の会社で熊本県の仕事「くまモン」を請けた時に、最初に「僕は何もしませんよ」と言ったんです。ただ皆さんが動くための種は差し上げます、と。「くまモン」も最初は僕が作ったものの、その後の展開は皆さんが考え、あそこまで人気がありました。
山崎 へえ。もっとう提案をパンと立ち上げて

グイグイ進めていくイメージを持っていました。
小山 企業が困っていて考えられるスタッフもない場合は、そういう時もあります。でも基本的には企画の種を渡して育ててもらいたいような考え方です。今、グリのコンサルタントをしています、やる気ある社員を集めて彼らをリードしながら、1個の商品をアウトプットするまでをナビゲートしています。企画構想学科では企画の考え方は教えています、ナビゲートの部分でコミュニティデザイン学科と一緒にやったら最高なんじゃないかな、と思いますね。

山崎 そのプロジェクトに近いことを、我々は企業ではなく行政に関わってやっていますよ。例えば、広島県福山市の市役所の中でチームを作り、13人のやる気ある職員がファシリテーターやワークショップの勉強をし、市民60人を集めてワークショップをやり、通常だったら我々がする役割を、この13人が市民の中に入れていってやっていく。どういう風にゴールしたいのかを引き出し、やり方を練習しながらチームを作っていくという、間接的な関わり方をしています。

小山 うーん、うちの学科の学生をそこに入れて学ばせたい(笑)。どうやって両学



くまモン
全国的な支持を得ている熊本県のゆるキャラ「くまモン」は小山教授が提案者。2012年度の卒業制作展では企画構想学科主催のイベントに登場。企画が地域で大きく展開する例として、トークイベントを実施しました。

科が連携をとりながら、魅力溢れるプロジェクトを進めていくかが大事なのかな、という気がしてきました。

地域社会の課題や要求に学生が主体的になってアイデアを提案する企画構想学科。地域



の方の意見を上手く引き出して、コトと一緒にデザインするコミュニティデザイン学科。

小山 企画構想学科の場合は、先に(アイデア)の種を私たちが作って相手に「育ててください」と渡すことが多いです。そこが両学科の違いと言えるでしょうね。

山崎 コミュニティデザインの場合は地域の方が主役なので、先に種を持たず、何を植えたいか

な、これかな、と、みんなの種を集めて決めることが多いです。しかし、どのアイデアがおもしろいか判断するために、地域に入る時にはスタッフに100案くらいアイデアを持っていけと言っています。住民の方の意見に刺激されて、そのうちの3つか4つのアイデアを合わせ、組み立てて説明します。種を自分の懐から出して見せるか、見せないかの違いがあるんですね。

自分の人生を楽しく、誰かのしあわせをすることに喜びを感じられる人に。ふるさとに戻って、育ててもらった場所を元気にしていく問題意識を。

小山 実は、学生にこういう仕事に就いてほしい、というのではないんです。きつ



と山崎さんは、地域のためになる人間を育てたいと思ってるんじゃないかと。

山崎 そうですね。ふるさとを元気にしたい、と。

小山 そこがすごく明快。僕の場合は違って、自分の人生を楽しく生きられる人になってほしい、というのが一番なんです。"Your happiness is my happiness."だと思ってるので、誰かのしあわせをすることに喜びを感じられるような人間になってほしい。



オレンジ・アンド・パートナーズ
小山教授が代表を務め、「ロケーションやプロダクツに新しい息吹を与える」、新価値創造会社を目指しています。あらゆる分野において企業様の取り組み「商品やサービス開発」「リノベーション」「バリューアップ」などをプロデュース。「くまモン」の他にも数多くの実績があります。

人のしあわせの作り方は決してひとつではなくて、故郷に戻ってその人たちと楽しくやっていくことや、料理人になって美味しいごはんを食べさせることもそうです。企画構想学科では、人間力と精神論と、そして少しだけの発想するコツを教えられたらいいなと思っています。これはありとあらゆる職業に通じるのかなあと。

山崎 僕は、学生には育ててもらった場所を元気にしていくことに対する問題意識を持ってほしいですね。各地域で「若い人がいれば…」という話を必ずされるので、うちの学科にきたら「4年間経ったら自分のふるさとに戻る」と、もう、誓約書を書かせちゃおうかと(笑)。
小山 あはははは!(爆笑)。それはすごいですね。

山崎 若者がふるさとに戻っていかないと、〈studio-L〉の仕事がまた増えちゃうんですよ。

小山 それ、うちと全く逆ですね。先日、4年の女子学生が就職活動に行き詰まったと相談にきました。僕は、居る場所によって誰に出会うかが決まると思うので「きみ、どこに住みたいの?」と聞いたら、「湘南に住みたい」と(笑)。だったら、もう湘南に行けと。僕がやっている横浜のラジオ番組に彼女を呼んで公開就活やってやると言いました。湘南地区の方限定で、今から紹介する子を採用したい人!と募集するんです。

山崎 それはおもしろいな(笑)。

小山 山崎さんは強くふるさとに帰って欲しいと思っているのにな(笑)。

山崎 僕が今考えているのは、コミュニティデザイン学科で2年になったら、全員が個人事業主として

起業する、ということ。卒業の時には廃業届けを出して企業に就職するか、そのままいくか、どっちかだと。そんな学科にしてもいいのかなと。

小山 就職率100%じゃないですか!

山崎 相当の覚悟が必要ですけどね(笑)。起業するなら、故郷のためになるコミュニティビジネスを自分たちで考え、それに必要なものを4年間かけて探っていきたいなと思っています。

WEB 2人が手がけたプロジェクトについてはWEBで。



studio-L
人が繋がる仕組みづくりや担い手育成などの「見えないデザイン」から、プロセスや成果を見える化する「見えるデザイン」まで、さまざまなデザインの手法を使って、食、農、自然、福祉、観光、アート、教育、環境、医療、防災など、多様な分野に取り組んでいます。

山崎亮 Ryo Yamazaki (右)
ランドスケープデザイナー、コミュニティデザイナー、株式会社studio-L代表。公共空間のデザインや、プログラムデザインに携わる。京都造形芸術大学芸術学部空間演出デザイン学科長。2014年4月に東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科長兼教授に就任。

小山薫堂 Kundo Koyama (左)
放送作家、(株)オレンジ・アンド・パートナーズ代表取締役社長、N35inc代表。2009年4月に東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科長兼教授に就任。放送作家としての活動以外に、エッセイ執筆、商品開発、ラジオパーソナリティなど、多分野にわたり活躍中。



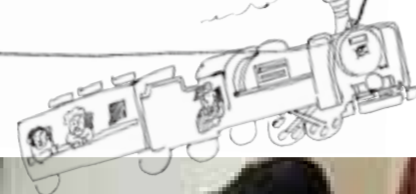
コミュニティデザイン学科出張授業
コミュニティを元気づけるプロ集団である〈studio-L〉のスタッフを講師に、高校生向けの出前授業「未来の地域社会を元気にできる人になろう」を全国で無料開講致します。お問合せ、お申込みは入試課まで。TEL:0120-27-8160





課題：真岡市を、訪れた人が「また来たい」「住みたい」と思う、選ばれる町にしたい！

長谷川佳孝さん[真岡市産業環境部商工観光課観光係 係長]



コミュニティデザイン学科



課題や悩みを持つ相手と、
解決策を一緒に考え、
活動をサポートすることで解決に導く。

栃木県真岡市は2011年8月から(studio-L)のサポートを受け、観光を手段に町を元気にしていくことに取り組んでいます。これまでに始動したプロジェクトは、市民や行政職員が中心となり真岡市の魅力を発見していく「魅力発見隊」の結成。真岡市で出会い、つながる

ことができる人々や伝統を住む人の目線で体験するモニターツアー「てまみツアー」など。今年6月10日に開催した「真岡市観光ネットワーク中間報告会」では、じゃらんリサーチセンター研究員の三田愛氏と山崎亮氏のトークを企画。新しい視点で観光を捉え、人と地域が

持っている可能性を最大限に活かすことの重要性について語り、参加者の主体性を刺激しました。その後のワークショップでは、真岡らしい観光まちづくりに関して市民がアイデアを出し合い、今後の方向性を確認しました。
WEB ワークショップの詳細を紹介します。

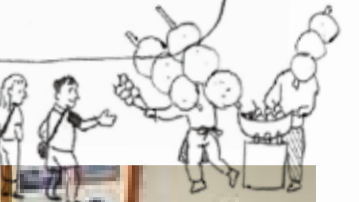
コミュニティデザイン学科 (2014年4月開設)

社会で広く求められる課題発見能力と課題解決能力を備え、人と人の繋がりから地域の問題解決に貢献できる「コミュニティデザイナー」を育成します。学科長に山崎亮氏を迎え、代表を務める(studio-L)と連携を図りながら実在する地域の課題に挑戦。ワークショップの企画運営などの見えないコトのデザインから、出版物編集やコミュニティ空間などの見えるモノのデザインまで、地域の人と共に生み出す力を習得し、実践力と豊かなコミュニケーション能力を養います。



課題：現在の製造ラインを活用して、平野屋の新しい顔となる玉こんにゃく商品を作りたい！

平浩一郎さん[株式会社平野屋 専務取締役]



企画構想学科



課題や悩みを持つ相手に、
自らアイデアと企画を考え
実践することで解決に導く。

こんにゃくや豆腐、納豆などのデイリー食品の製造を行う株式会社平野屋より、玉こんにゃくを使った新商品開発の依頼を受けた田中範男教授と企画構想学科の3年生10名。中間プレゼンテーションまでの約2ヶ月間、ひたすら玉こんにゃくを試食し、さらに現代の食生活やこ

んにゃくの市場などについて調査を行いながら、実に100案以上のアイデアを考案しました。当日は、伝統を活かしたものからこれまでにない斬新な味わいのものまで、計5つの新製品案について、ネーミングや商品企画、想定購入層などをプレゼンテーション。参加した平野

屋の方々からは「発想が面白い」「頭の中で想像してとてもワクワクした気持ちになっている」「今すぐにでも試してみたい」などの声が上がリ、提案後も学生と社員さんが意見交換を行うなど、活気あふれる場となりました。
WEB プレゼンテーションの様子を紹介します。

企画構想学科

広告や広報、映像やホームページなどのコンテンツ企画、企業や商品のブランド戦略など、あらゆる分野で人や社会を幸せにするアイデアを実現できる「企画力」と「実践力」を学びます。企画を生み出すために必要な、当たり前の日常を見直し、新たな価値を生み出していくプロセス。そのために欠かせない、魅力を引き出し方や表現方法、コミュニケーションの手法、時代を見極める感性などを事例から習得。活躍の場は企業や地方自治体など、可能性は多岐に渡ります。

コミュニティデザイン学科のコトのデザイン



企画構想学科のコトのデザイン



NEWS & TOPICS



16 6月15日に保護者懇談会を開催。講演会や個別相談会も

6月15日に東北芸術工科大学 保護者懇談会を開催しました。2013年4月より運用を開始しているキャリアセンターの井上尚センター長が「厳しい就職状況を踏まえて、保護者ができること」と題した講演会を実施。1～4年生までの保護者、約570名にご参加いただきました。また保護者と教員との個別相談会や懇親会も開催。懇談会では保護者会会員による山形のB級グルメ「とんどん焼き」や「芸工大飯頭」を振る舞ったほか、山形市大曾根地区に伝わる餅つき文化を保存する「大曾根餅つき保存会」による餅つき大会も行いました。



2 「食と生活」に関わる産学連携新ブランド「aGarey」を国際見本市で発表

共創デザイン室では、プロダクトデザイナーの鳥村卓実氏を客員研究員に招き、山形県内の製造業6社と「食と生活」に関わる新製品開発プロジェクトを始動。国際見本市「interiorlifestyle TOKYO」(6月5日～7日/東京ビッグサイト)で、新ブランド「aGarey」(アガレイ)を発表しました。山形の「ものづくり」に、「デザイン力」「企画力」を加え、山形の企業の強みを活かした試作品を出展しました。◎参加企業:三和油脂株式会社、株式会社高橋製糖、有限会社玉谷製麺所、有限会社富士紙器、米鶴酒造株式会社、壘屋道場株式会社
URL:http://www.interior-lifestyle.com/jp/top.php



3 「日本一さくらんぼ祭り」に参画ダンスや神輿で盛り上げました

6月22日、23日に山形市七日町通りを中心に開催された「日本一さくらんぼ祭り」で、お祭りのコンセプト企画立案からロゴデザイン、イベント運営まで、芸工大では中核的な部分での連携協力を行いました。2日間を通して、企画構想学科の学生とサークル「Music Project」などの企画によるダンスイベントを開催。また、初日には総合美術コースの学生が制作したさくらんぼ神輿を含む4基の神輿が会場を練り歩き、お祭りを盛り上げたほか、サークル「ウタイビト」と「民俗舞踊団(郷)」の公演、さくらんぼをテーマにしたグッズコンテストも開催しました。

長坂一郎教授と岡田靖講師が「白鷹町の仏像展 2」に協力

文化財保存修復研究センターでは、センター長の長坂一郎教授と岡田靖講師が、「白鷹町の仏像展(2) 湯殿山信仰、異形の神仏」(3月26日～4月14日)に協力。展示物の事前調査と仏像の応急修復処置や展示設置を担当しました。また本展は、大学院修了生で、会場となった白鷹町文化交流センターAYu:M学芸員の宮本晶朗さんが調査研究と企画を実施。グラフィックデザイン学科卒業生の高橋知子さんがフライヤーを制作しました。
白鷹町文化交流センターAYu:M URL:http://www.ayu-m.jp/
文化財保存修復研究センター URL:http://www.iccp.jp/



「国立デザイン美術館をつくる会」パブリック・シンポジウムを共催

芸工大ではデザイナーの三宅一生氏と国立西洋美術館館長の青柳正規氏により2012年9月に設立された「国立デザイン美術館をつくる会」の活動に賛同し、4月21日に開催した第2回パブリック・シンポジウム「こんなデザイン美術館をつくりたい」を共催しました。会場のせんだいメディアテークには300名以上の方が来場。グラフィックデザイナーの佐藤卓氏とプロダクトデザイナーの深澤直人氏がモデレーターとなり、「わたしがデザイン美術館をつくるなら」をテーマに議論。また「こんなデザイン美術館をつくりたい」というプランを募集し、現代美術家で副学長の宮島達男教授と建築史家の五十嵐太郎氏が選者となり、デザイン美術館のあり方や可能性を議論しました。
URL:http://www.designmuseum.jp/

青山ひろゆき講師がロックバンド「BIGMAMA」着用Tシャツをデザイン

デザイナーで写真家の古谷完氏が立ち上げたメンズブランド「glamb」(株式会社Laugh Valley)が展開するアーティスト「コロバトシャツ」企画で、洋画コースの青山ひろゆき講師がロックバンド「BIGMAMA」着用Tシャツをデザイン。スマートフォンケースも発売されました。また洋画コース卒業生でアーティストとして活躍する高松和樹さんも、ミュージシャンのSHOGO氏(175R)が着用するコロバトシャツを手がけています。
URL:http://www.glamb.com/12ea/2013/



徳山詳直理事長のミニフィギュア「しょうちやく君」が絶賛発売中

京造形芸術大学と株式会社海洋堂が産学連携し、徳山詳直理事長のミニフィギュア「しょうちやく君」を販売。シルバー、ゴールド、スケルトンの3色で、理事長のヘアスタイルやトレードマークの杖などを精密に再現。芸工大では学内ショップ彩画堂で購入が可能です。◎販売価格300円(税込) ◎ショップ彩画堂TEL:023-634-0033



エマニュエル・ムホー准教授がミルフィニユをコンセプトに家具をデザイン

プロダクトデザイン学科のエマニュエル・ムホー准教授が、Wallpaper誌の企画として建築設計を手掛けた果嶋信信用金庫支店「虹のミルフィニユ」(2011年/東京都)をコンセプトに、ドイツの家具メーカーSchonbuch社と家具「Mille-Feuille」を製作。2013年のイタリア・ミラノサローネで発表しました。様々な色を重ね、ローテーブルやシェルフなど様々な展開が可能なキャビネット3種類をデザインし、今後、製品化される予定。一方、手ぬぐいのコレクションを楽しむプロジェクト「てぬぐ」(2010年)のためにデザインした「足場からの風景」を基に、同デザインのファイルノートやリングノートが発売。カラフルなアートワークを身近に楽しむ事ができます。

4 文房具アイデアコンテストでプロダクトデザイン学科学学生が準グランプリ

サンスター文具が主催した第18回文房具アイデアコンテスト(応募総数2,757点)の一般部門で、プロダクトデザイン学科3年の倉島拓人さんと二瓶和孝さんが共同による、熱で消えるフリクションインクを応用したノート「disappear note」の提案が、準グランプリを受賞しました。◎テーマ:たいせつ ◎対象:文房具 ◎賞:グランプリ(1作品)賞金100万円/優秀賞(5作品)賞金10万円/審査員特別賞(4作品)賞金3万円+副賞
URL:http://www.sun-star-st.jp/

総合美術コースが「鶴岡天神祭」の「化けもの」のかぶりものを制作

総合美術コース3年生が、鶴岡の地域文化の促進活動を目的とする特定非営利活動法人「公益のふるさと創り鶴岡」からの依頼で、「鶴岡天神祭」で披露する「化けもの」のかぶりものを制作。古い資料を参考に復活させ、5月25日のお祭りでは学生も練り歩き伝統行事を盛り上げました。
URL:http://www.tsuruokakanko.com/season/tenjin/

日本画・洋画の大学院生が、佐藤国際文化育英財団の奨学生に選出

大学院日本画領域1年の多田やかさんと、洋画領域1年の田島治樹さんが、美術を専攻する学生への奨学援助などを目的とする佐藤国際文化育英財団の「平成25年度第23期奨学生」に選出されました。全国の美術系大学(指定校)より推薦を受けた邦人学生と留学生の応募者の中から審査により選ばれ、2013年4月より2年間、奨学金が支給されます。
URL:http://homepage3.nifty.com/sato-museum/

今年で10回目。卒業生の展覧会「サクラマス2013」を開催

本学卒業生でクリエイターとして活動する59名による作品展「サクラマス2013」(4月27日～5月29日)を山形市の山形デザインハウスで開催。漢流から海に降りたくましく育ち、桜の咲く頃に川を上ってくる山形県の魚「サクラマス」の姿になぞらえ、年に一度山形の地で作品を発表。本展は今年で10回目。◎主催:サクラマス2013運営委員会 ◎共催:NPO法人山形県デザインネットワーク ◎後援:東北芸術工科大学校友会/東北芸術工科大学卒業生後援会
URL:http://sakuramasu.jp/

NEWS & TOPICS



15 就職活動を強力サポートキャリアセンターを設置。運用開始へ

大手企業や他大学で就職支援を専門としてきたプロが学生の就職活動をサポートする「キャリアセンター」を設置し、2013年4月より運用開始。「なぜ芸術を学ぶのか」「芸術を社会でどう活かすか」という学ぶ意欲の形成から、「勤労・職業観等の価値観」や「キャリアプランニング能力」などの育成及び支援体制強化が目的。起業した本学OBによる「自分の働き方を自分でつくる」方法についての講義なども実施します。
URL:http://www.tuad.ac.jp/newsevents/topics/cc/



核廃絶と世界平和の志を未来へ「藝術立国の碑」の除幕式を執行しました

芸工大本館正面、芝生の丘に「藝術立国の碑」を建立し、7月9日に除幕式を執り行いました。芸工大は姉妹校の京造形芸術大学との共同研究機関「文明哲学研究所」を2012年10月27日に設立。核廃絶と世界平和のために、藝術的視座から新たな文明の哲学を創造する研究活動を進めております。この石碑の建立は、文明哲学研究所が掲げる「核」廃絶と、本学が建学の理念として掲げている世界平和に向けた「藝術立国」の志を、未来へ継承するため建立したもので、除幕式には、理事長の徳山詳直のほか、山形市長や石碑の揮毫をいただいた植松弘祥 日展 参与権墨書院会長などにご参加いただきました。



板橋おかりさんの絵画作品「仮面麗人」が河北美術展で入選

グラフィックデザイン学科2年の板橋おかりさんの絵画作品「仮面麗人」が、「第76回河北美術展」(4月26日～5月7日)の洋画部門で入選。大和町の四季折々の自然風景や祭り・行事などを題材とする絵画と写真の公募展「第18回大和町まほろばの風景 七ッ森」展でも審査員特別賞を受賞しました。

山口(内田) 雅克教授が英語を身につけるためのテキストを出版

教養教育センターで英語の授業を受け持つ山口雅克教授が下記の本を出版。◎Interactive English Book for Reading Book1・2 ◎著者:内田雅克/John DiStefano/Randy Nelms/豊嶋美由紀 ◎松柏社 各1,890円(税込)◎Interactive English Book for TOEIC Test Book1・2 ◎著者:内田雅克/Randy Nelms/亀山博之 ◎松柏社 各1,659円(税込)◎コンパクト・エッセンシャル実践英文法 ◎著者:内田雅克/Randy Nelms ◎松柏社 2,205円(税込)

21 竹内昌義教授が所属する「みかんぐみ」の建築物が「BELCA賞」の部門賞を受賞

建築・環境デザイン学科の竹内昌義教授が所属する建築家集団「みかんぐみ」が改修を手掛けた「マルヤガーデンズ」(鹿兒島市)が、長期にわたる適切な維持保全や、優れた改修を実施した既存建築物を選出する「BELCA賞」のベストリフォーム部門賞を受賞。この賞は建築業界でのリノベーションの学会賞とされており、コミュニティデザイナーの山崎亮氏とデザインプロデューサーのナガオカケンメイ氏関わっています。表彰式は5月15日に開催されました。BELCA賞URL:http://www.belca.or.jp/belca4.htm マルヤガーデンズURL:http://www.maruya-gardens.com/



第33回東北建築賞作品賞でエコハウス「HOUSE-M」が作品賞を受賞

地球環境時代に相応しい優れた建築作品を表彰し、東北の建築水準の発展に寄与する「第33回東北建築賞作品賞」で、建築・環境デザイン学科と共創デザイン室が設計を担当したエコハウス「HOUSE-M」が作品賞(小規模建築物部門)を受賞。6月22日に盛岡市で表彰式が開催されました。◎主催:日本建築学会東北支部

大平由香理さんと結城ななせさんが「アートアワードトーキョー」に出品

若手アーティストの発掘と育成を目的に、全国の卒業・修了制作展に出品された代表作を紹介する「アートアワードトーキョー丸の内2013」(4月27日～5月26日/行幸地下ギャラリー)で、大学院修了生の大平由香理さん(写真)と結城ななせさんが選ばれ、出品しました。◎主催:アートアワードトーキョー丸の内2013実行委員会
URL:http://www.artawardtokyo.jp/2013/ja/



瀬川千晶さんの日本画作品が入選「トーキョーワンダーウォール公募2013」

日本画コース4年の瀬川千晶さんの作品が、東京都が主催する「トーキョーワンダーウォール公募2013」(5月18日～6月9日/東京都現代美術館)で入選。未来の美術を担う新進気鋭作家の作品発表の場として都庁を開放し作品展を開催するもので、公募で選ばれた12名の作家による平面や立体、映像、インスタレーション作品などが順次展示されます。
URL:http://www.tokyo-ws.org



伝統と現代をつなぐ動物芸芸東北ルネサンス「THE 猿まわし」を開催

山口県光市の無形民俗文化財「周防猿まわし」の会をお招きし、恒例の猿まわし公演「東北ルネサンス THE 猿まわし-伝統と現代 輪の中はおどきの国-」を6月12日に本学正面広場で開催。能や狂言、歌舞伎と並ぶ伝統的な芸芸として、2匹の猿の演技や芸人とのやりとりを披露。山形市内の園児を含む約1,000名を超える方にお越しいただきました。◎主催:東北文化研究センター



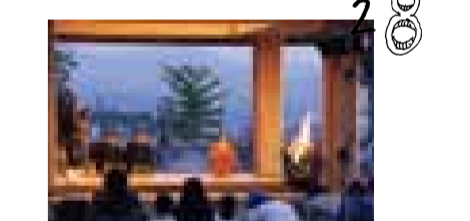
坂東慶一准教授が、将棋の駒をモチーフに天童市のPRロゴマークを制作

天童市からの依頼で、グラフィックデザイン学科の坂東慶一准教授が天童市PR用ロゴマークを制作。天童市が生産量第一位の「将棋の駒」をモチーフに展開した4つ形の駒と、同じく生産量第一位の果物「ラフランス」をイメージする黄緑色を組み合わせてデザイン。今後、商標登録を行い、公的な配布物や商店街などで幅広く活用されます。



27 山口裕子さんがKawaii+大賞展に出品。「FUDGE」 「月刊美術」等でも紹介

大学院日本画領域博士課程2年の山口裕子さんが、公募展「第1回Kawaii+大賞展」の招待作家と受賞作家が出品する「Kawaii+大賞展」(4月27日～7月7日/山ノ内町町立志賀高原ROMAN美術館)に出品。また花と動物を独特の色彩感覚で描く作品が評価され、ファッション雑誌「FUDGE」WEBサイトのコーナー「Clip」でも紹介。6月20日発売の「月刊美術」では5月に新生堂(東京都)で開催した個展「山口裕子 日本画展-花のありか-」の展覧会評が掲載されたほか、6月25日発売の「アートコレクションズ」巻頭特集でも紹介されました。
作家URL:http://yuko-yamaguchi.main.jp/ Kawaii+大賞展URL:http://www.kawaiiplus.jp/



幽玄なる能の世界。約700名の観客を魅了した「第11回伝統館薪能」

「第11回伝統館薪能」を5月13日に水上能楽堂「伝統館」で開催。日本を代表する能楽師 観世鏡之丞氏、山本次郎氏らが、能「清経」と狂言「宗論」を演じ、約700名の観客を魅了しました。◎主催:東北文化研究センター

29 東京藝術学舎で新講座「千住博 ザ・スーパー・アートスクール」を開講

2013年8月より、東京藝術学舎 学舎長に千住博教授が就任し、新講座「千住博 ザ・スーパー・アートスクール」を開講。選考された12名の応募者は、作家として自立・活動できる基盤を固め、世界に発信できる芸術家の養成を目指します。千住教授が受講生を個人指導するほか、毎回課題を出題し、問題点や成功例を全員で共有するゼミ形式で進行。世界を視野に入れたスクールです。
URL:http://gakusha.jp/senju/



ドラマとは違い、ドキュメンタリーを撮ることに不慣れだという学生たち。一つひとつの作業を丁寧に行う天童木工では、撮影のタイミングを逃せば次に同じ工程を撮影できるのは30分後、という事態に。学生たちは、慎重に素早く準備をしながら、自分たちが納得いく映像をカメラに取っていきます。撮影後はいよいよ編集作業へ、作品の仕上がりに次第によっては、ウェブギャラリーでの公開の可能性も。



芸工大 * 天童木工

映像学科が演習で、天童木工のCMを制作。

「気づくとちょっと嬉しい」「工場ではない、工房だ」
学生の視点が捉えた天童木工のものづくり。

映像学科が演習の一環として、株式会社天童木工のCM制作を行いました。工場見学とオリエンテーションで、家具メーカーとして73年の歴史がある天童木工の特徴をつかみ、家具市場の現状を認識した上でCM内容を企画。A・Bの2班に分かれてプレゼンテーションを行い、実際に全ての作業工程が行われている工場での撮影を行いました。天童木工の家具の中の、気づかない所に施された工夫や職人のこだわりをフォーカスし、「気づくとちょっと嬉しい」というコンセプトで撮影に入ったA班。「工場ではない、工房だ」というキャッチコピーで家具職人の技や姿を映し撮っていくB班。両班とも、変化する現場の状況に戸惑いと緊張を見せながらも、真剣な表情で撮影に取り組んでいました。

現場で仕事をする職人に配慮し、短時間で撮影をこなし、撮影が終わると「ありがとうございまして!」と明るく声をかける姿に、撮影に協力してくれる職人も笑顔を見せました。天童木工企画部企画課係長の結城純氏は、工場内撮影時の注意として、職人に対し、自己紹介や自分たちが何をやりたいのかを明確に示すことなど、どこでも共通する基本的なことが大事だとアドバイス。この助言は現場によく活かされていたようです。「働いている姿を俯瞰することはなかなかないので、職人たちが出来上がりを楽しみにしているんですよ。普段見落としがちな魅力に着目して、学生の視点を鋭く新鮮さを感じました」という結城氏。今回のような地元大学との交流は創業以来初めてのことで、

天童木工の背景やこだわりに触れることが学生たちの将来に役立ち、いいプロダクトが生まれれば、と想いを伝えました。クライアントの要望を汲みながら企画、制作を行い納品する、という流れの中でクライアントの喜んだ顔を見ることを経験してほしいと語るのは今村教授。「映像を作るということがコミュニケーションのツールとしてどう役に立つのか、自分たちの達成感を持つだけでなく、実社会との接点を持つことを感じてほしいですね。『へ〜! CMってこうやって作るのか、おもしろいな』と。まずは一度自分たちで驚いてみるということが達成目標です」と、今村教授は忙しく動き回る学生たちの姿を見つめました。



映像学科

アニメーションや映画、CG、写真など、多くのメディアを1年次から横断的に学ぶことで、独自の表現方法と感性を磨いていく映像学科。カメラやマイク、編集ソフトの使用方法から、シナリオ制作や編集の進め方、試写会まで、プロ仕様の機材と施設を活かし、基礎から映像制作を習得します。言語を越えた情報の表現方法といえる映像を学び、世界中に感動を広げる力を身につけていきます。

生涯学習プログラムでは、初心者から経験者まで、誰でも楽しめる銅版画講座を開講しています。全6回の講座内容は、銅版画の基本であるエッチング(線の表現)、アクアチント(面的表現)の腐蝕銅版画などを実技指導し、それぞれの作品世界を完成へと導くというものです。この講座では、課題を決めず自由な気持ちで描くことを大切にしています。何を描けば良いか決めかねている、自分の絵に自信がない、という方は好きな絵や写真を銅版の上に写し描き。銅版を彫るニードルを使った細やかな線には個性が表れ、一人ひとり違った表現になっていきます。指導にあたった美術科の若月教授は、「銅版画の魅力は、細い線が描き出す表情と油性インクの深淵な黒。そして、自分が想い描くものと反対の向きに描き、インクを刷り込み、1トンもの力で紙にインクを押しつける過程の中で、銅版に宿った“気持ち”が紙に刷り取られていく所です。最後に紙をめくるまで結果を目にすることができないワクワク感や、思い通りにならない結果を楽しんでほしいですね」と語ります。最終日の本刷りでは、グレートーンがより深く表れる雁皮刷り(がんびずり)にも挑戦。美しく仕上がった作品について若月教授が講評を行い、和やかな雰囲気の中で講座は終了しました。



「版画は、仕上がりの半分は自然素材に任せる部分があります。結果に期待して楽しみながら、自由な気持ちで制作の喜びを感じてほしいです」
若月公平(美術科教授)



「美術館で観た銅版画を自分でもやってみたいと思い、はじめて受講しました。次はもっと細かい絵柄に挑戦したいです」
広野規子さん(酒田市)

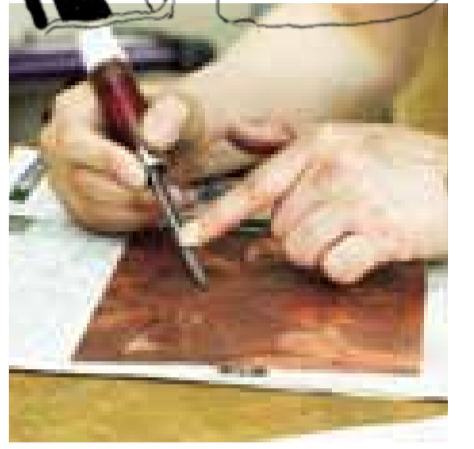
生涯学習プログラム講座レポート

銅版画講座

エッチング、アクアチント技法による銅版画制作 [全6回]

+ Art

東北芸術工科大学
生涯学習プログラム



左:幅広い年齢層に愛されている銅版画。受講者の中には、80歳を超えてもお宮沢賢治をテーマに作品を作り続けている方も。右上:ニードルを使っている作業は細かく丹念に行われる。右下:プレス機を通った銅版から紙をはがす、喜びの瞬間。

EVENT SCHEDULE

在学生や卒業生の方からのイベントなどの告知や、受賞情報をお待ちしております。広報室へお気軽にご連絡ください。また、日程や掲載内容は変更になる場合がありますので、HPなどで事前にご確認願います。

- 藤原大ディレクション カラーハンティング展 色からはじめるデザイン
プロダクトデザイン学科のエマニュエル・ムルノー准教授と、プロダクトデザイン学科の学生が出品。展示企画「ネーム・ザ・ツリー (Name of the Tree)」の動画作品で、シドニー、東京、ニューヨークなど多数の中から本学からは2案が選出。
会期:6月21日(金)~10月6日(日)
会場:21_21 DESIGN SIGHT
URL: <http://www.2121designsight.jp/>
- べにばなアート展 紅花colors
テキスタイルコースでは、紅花をメインテーマに表現した作品展を開催中。
会期:7月2日(火)~28日(日)
会場:白鷹町文化交流センター AYU:M (あゆーむ)
主催:白鷹町/白鷹町観光協会
URL: <http://www.ayu-m.jp/>
- 高橋コレクション マインドフルネス!
大学院修士生で現代美術家の近藤亜樹さんが、現代美術コレクターである高橋龍太郎氏のコレクション展に出品。
○鹿兒島県霧島アートの森
会期:7月12日(金)~9月1日(日)
○札幌芸術の森美術館
会期:9月14日(土)~11月24日(日)
高橋コレクションURL: <http://www.takahashi-collection.com/>

- 松本零士特別講演会「想像の世界ー若者よ、未来を拓く力を持てー」
「銀河鉄道999」「宇宙戦艦ヤマト」などの名作で知られる漫画家・松本零士氏による講演会を開催。
日時:7月27日(土)14:00~16:00
会場:本館4階408講義室
- 夏のオープンキャンパス
「見る」「知る」「話す」「体験する」を合い言葉に大学を感じ取るオープンキャンパス。沢山の企画やイベントに参加して芸工大生を体験!
日時:7月27日(土)、28日(日)10:30~16:00
会場:東北芸術工科大学
- 特別公開講座 見城徹、越水利江子「作家へのロードマップ」
出版社社長や作家をお招きし、現代作家に望まれていることなどを講演。28日には学生による出版企画の発表と、見城氏の講評も実施。評価によっては企画が実現する可能性も!
○夢のある小説のかたち 児童文学・ファンタジー小説をめぐって
日時:7月27日(土)13:30~14:30
講師:越水利江子(児童文学作家/学科客員教授)×山川健一(作家/教授)
○どんな新人作家の出現を望むのか
日時:7月28日(日)13:30~14:30
講師:見城徹(幻冬舎代表取締役社長/学科顧問)×山川健一(作家/教授)

- ひじおりの灯
開湯1200年を迎えた2007年から、肘折地区と協力して開催しているアートプロジェクト。様々な「肘折物語」が、この夏も八角形の灯ろうに描かれ、夜の温泉街を灯します。
会期:7月27日(土)~9月16日(月)※雨天、強風時は休み。
会場:肘折温泉街(山形県最上郡大蔵村)
点灯:18:00~20:00/会期中無休
○山を語る
日時:8月10日(土)13:30~16:30
会場:肘折いでゆ館ゆきんこホール/入場無料
司会:坂本大三郎
出演:石倉敏明(人類学者)/KIKI(モデル)/田附勝(写真家)
○山を描く(肘折絵語り・夜語り)
日時:8月10日(土)18:30~20:30
案内人:本学学生ほか
- 公開講座 創造の時空学「手仕事再考」
京都造形芸術大学×東北芸術工科大学2大学連続講座を開催。8月の根岸学長の回は「映画に取り組み準備体操」がテーマです。
日時:8月10日(土)17:00~19:00
会場:外苑キャンパス/受講無料
講師:根岸吉太郎(教授/本学学長)
定員:60名
申込:芸術学舎のHPから事前申込が必要
URL: <http://gakusha.jp>

- 第2回平和文明会議
2012年に芸工大の共同研究機関として設立した「文明哲学研究所」主催で開催。
○会議「科学の使命と核廃絶への道」
○講演「反原発を進める科学と国家のあり方」
日時:8月20日(火)13:00~17:00
会場:京都造形芸術大学 瓜生館1階
- 大学祭「芸工祭」
サークル主催のイベントや学科コースの自主企画展、アート作品の展示や模擬店、屋台やカフェなど内容盛り沢山です。
会期:9月21日(土)、22日(日)
会場:東北芸術工科大学
- デザセン決勝大会
9月上旬の二次審査で選ばれた12チーム(校)が、自分たちのアイデアを7分間で発表し、優勝提案を決定する決勝大会を開催します。
日時:10月27日(日)12:30~17:00
会場:東北芸術工科大学
- 紅花ルネサンス Vol.6
テキスタイルコースが、種から育て収穫した紅花を使い、冬の日に染めるワークショップとシンポジウムを開催します。日程は予定です。
○ワークショップ 日時:12月21日(土)
○シンポジウム 日時:12月22日(日)
会場:東北芸術工科大学